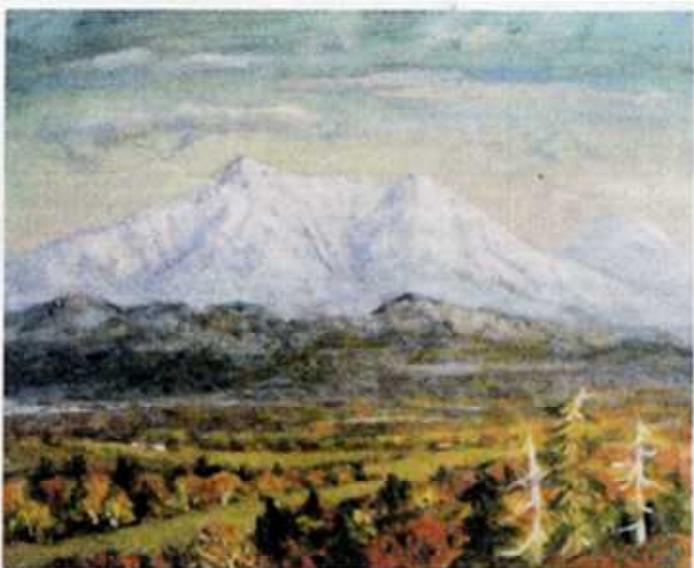


松山 忠弘展



神居尻とビンネシリを望んだ油彩『晩秋』(8号)

山の四季、時間によって変化する表情を描き続けて30年。「山に懸せられて」をテーマに道内を中心に海外の山を描いた30点ばかり。大きな描き方。昨年4月、名古屋市で開いた個展に次いで18回目。

「ギヤーラリー」という『赤穂ラマニア』(6号)以外は、山を展望あるいはアップして描いた雄大な光景。

4月のネバールの標高8千メートルを展望した『4月のニルギリ』(20号)や『ダウラギリ』(8号)は冠雪の山がブルーの空中に高々と浮く、というスケール。「ニル

ギリを描く所に到達するのに10日知床、羊蹄山、駒ヶ岳、十勝岳、芦別岳…道内各地の山々はもうろん「これまでに2回行って来た

といふネバールの山などを画面いっぱいに草々と、しかも神秘感を漂わせて描き上げている。春夏秋冬の移り変わりと同時に朝焼けや夕景が自然の変化をドラマチックに見せていている。

早朝と夕方の山の表情が多く、澄んだ色彩で描いていく。花畠の向こうにそびえる『笠置の羊蹄』(6号)、噴火の威力を象徴する真赤な『駒ヶ岳』(3号)…水彩画は透明水彩とペンで素早く描いており山の魅力を堪能できる。

札幌・さいとうGallery (中央区南1西3) で11日まで。

松山 忠弘(まつやま・ただひろ)さん 「スケッチは4千から5千枚はある」。スケッチブックは手放さない。「スケッチを基に朝、夕や四季の変化を自分の色で描く」。今年は知床、ニセコへ行き、ニセコの後志川でゴムボートで初めて川下りを体験、その時の作品も展示されている。札幌北高時代から油絵を描き、その頃は海の絵だった。山岳画家坂本直行氏(1982年、75歳で他界)を中心にして『歩歩(ぽっぽ)の会』の15回展に参加したことから山の絵に。同会は今年45回展を開いた。海外取材も豊富。01年7月、60歳の記念展を開いた。日本美術家連盟会員。1941年札幌市生まれ。旭ヶ丘夢工房を主宰。札幌市中央区旭ヶ丘1丁目2の4。

ギヤーラリー

